

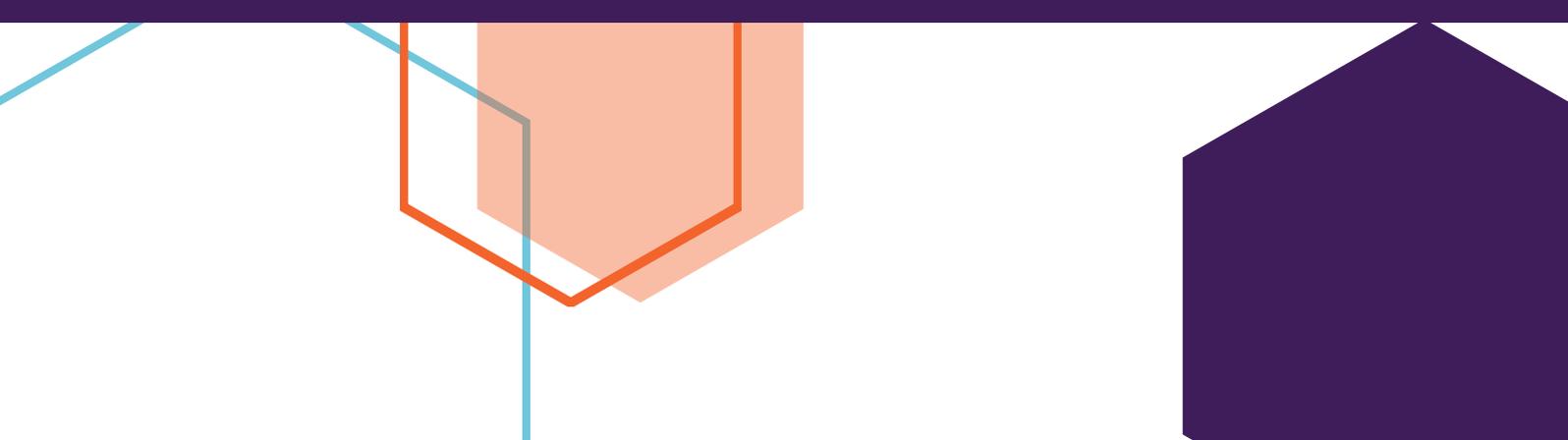


## 第2層協議体

事業所連携

第三小学校区

施設長より軽度の認知症の方をボランティアとして受け入れたいとの申し出があった。ボランティアセンターと連携して『オレンジボランティア』と称してボランティアの派遣の調整に取り組むこととなった。





## 第2層協議体

### 第三小学校区

#### きっかけ

ボランティアセンターより、愛の家富士で軽度の認知症状がある方をボランティアとして受け入れるためSCと連携していくとのお話があった。

VC：派遣の調整 SC：包括や他事業所への周知  
上記の役割で行うこととした。

#### 第1回会議（場所：愛の家富士）は

参加者：愛の家富士施設長 堂柿氏、SC 鈴木、中田

施設の状況：（堂柿氏）介護報酬も減算が続き、人員確保や介護以外の業務に手を回すことが困難となっている。現在は利用者18名（2つのユニット）。スタッフ21名。また、過去に軽度の認知症の方を受け入れた際に職員が助けられたことや利用者ボランティアで楽しさを共有できた経験もあり新たに受け入れたい。今後これがモデル事業となり、市内の事業所に広がりを見せると活動の場を探している軽度の認知症の高齢者や人手不足の事業所にとっても良いことだと思っている。

#### ボランティアの条件と内容

条件：60歳以上の方はコロナワクチン4回接種済み。行動範囲が限られている方。健康な方から要支援1.2まで（施設での転倒リスクがない方）。人との関りが好きな方。

内容：職員の補助（掃除機かけ、洗濯物取り込み、話相手など）、庭木の手入れ、自転車置き場作成（木工作業が出来る方）

#### 展開

まずは西白井包括へ周知した。ボランティアの派遣が始まればSCも訪問し適宜周知の内容の見直しなど行っていく。



一度見学に行った様子では、ボランティアの能力に合わせて職員が対応してくれているものの、施設としては人手不足のため傾聴よりも草刈りなど身体を動かし作業できるボランティアの方がニーズにあっていることがわかった。

\*12月より、愛の家で感染症が発生し、現在受入れ中止中  
時期を改めることとする。

### CSの動きや考え方、他の連携

愛の家富士では過去に認知症が軽度の方をボランティアとして受け入れていた。

愛の家富士を訪問する前に、ボランティアセンター職員と打ち合わせを行った。

包括へ周知する為に必要な情報収集。

## 第 2 層協議体

